

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成31年2月14日

【四半期会計期間】 第41期第3四半期(自平成30年10月1日至平成30年12月31日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 安部 一夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 安部 一夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第3四半期 連結累計期間	第41期 第3四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (千円)	12,547,216	12,303,744	16,947,306
経常利益 (千円)	95,994	100,752	320,438
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	58,350	42,245	149,275
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	69,575	21,672	151,502
純資産額 (千円)	6,166,300	6,269,309	6,248,017
総資産額 (千円)	15,414,242	14,692,354	15,467,426
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	27.28	19.76	69.80
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	40.0	42.7	40.4

回次	第40期 第3四半期 連結会計期間	第41期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日
1株当たり四半期純損失( ) (円)	10.35	10.00

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善が継続し、緩やかな回復基調にありました。しかしながら、米中貿易摩擦の影響や世界経済の不確実性の問題、金融資本市場の変動懸念や世界的な地政学リスクの影響を受け、先行きは不透明な状況となっております。

外食産業におきましては、牛肉等の原材料価格の高騰、また働き方改革、継続的な人手不足やアルバイト・パート時給の上昇等もあり、人件費を中心に販管費が上昇しております。また、消費者の生活防衛意識が一層高まる等、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境の下、当社グループは経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様のご要望に適う魅力あふれる「安全・安心」に配慮した商品の提供に加え、おもてなしの心を込めたサービスの提供に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高123億3百万円（対前年同期比1.9%減）、営業利益1億19百万円（対前年同期比5.2%増）、経常利益1億円（対前年同期比5.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益42百万円（対前年同期比27.6%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 安楽亭業態

安楽亭業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は187店舗であります。内訳は直営142店舗、暖簾13店舗、F C 32店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、映画『パパはわるものチャンピオン』とのコラボ「俺が焼肉チャンピオンフェア」、「スポーツ割&スイーツ割、クーポン配信」、「ミスジ&きのこフェア」、「健康応援ヘルシークーポン配信」、「忘年会・新年会 早期予約早割キャンペーン」、「七五三特別クーポン」、「いい夫婦の日！割引クーポン配信」、「いい肉の日キャンペーン」、「創業55周年記念 生ビールキャンペーン」、「忘年会・新年会「直前割」キャンペーン」、「年忘れ 大感謝祭」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアやキャンペーンを行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は101億73百万円（対前年同期比2.1%減）となり、セグメント利益（営業利益）は4億59百万円（対前年同期比7.3%増）となりました。

#### 七輪房業態

七輪房業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は28店舗であります。内訳は直営24店舗、暖簾2店舗、F C 2店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、毎月恒例の「牛ホルモンフェア」、「チゲ3種類割引クーポン配信」、「25%増量クーポン配信」、「肉の日クーポン」、「牛タン20%引きクーポン配信」、「七五三記念！割引クーポン配信」、「ホルモン、マルチョウ・麺類クーポン配信」、「お肉と海鮮20%引きクーポン」、「もつ鍋・牛ハラミ10%引きクーポン」、「七輪房の日」等、メルマガやLINEによるクーポン配信を行ってまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は18億26百万円（対前年同期比4.2%増）となり、セグメント利益（営業利益）は86百万円（対前年同期比31.7%減）となりました。

#### その他業態

その他業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は9店舗であります。内訳は直営4店舗、FC5店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「国産牛カルビ本舗安楽亭(焼肉)」、「花炎亭(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「ロンチャン(中華)」、「アグリコ(イタリアン)」、「カフェビーンズ(喫茶)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は3億2百万円(対前年同期比24.5%減)となり、セグメント損失(営業損失)は7百万円(前年同期はセグメント損失23百万円)となりました。

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ7億75百万円減少し、146億92百万円となりました。これは、借入金の返済による現金及び預金の減少、減価償却による有形固定資産の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ7億96百万円減少し、84億23百万円となりました。これは、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ21百万円増加し、62億69百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上、その他有価証券評価差額金の減少等が要因です。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成31年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,139,434	2,139,434	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株で あります。
計	2,139,434	2,139,434		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年10月1日～ 平成30年12月31日		2,139,434		3,182,385		147,735

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,125,700	21,257	
単元未満株式	普通株式 12,834		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,139,434		
総株主の議決権		21,257	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式85株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2-3-5	900		900	0.04
計		900		900	0.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,865,547	2,076,982
受取手形及び売掛金	415,774	393,871
商品及び製品	133,869	173,315
仕掛品	854	566
原材料及び貯蔵品	475,929	691,444
前払費用	202,916	209,078
その他	96,727	68,173
貸倒引当金	226	230
<b>流動資産合計</b>	<b>4,191,392</b>	<b>3,613,201</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	2,880,068	2,815,182
機械装置及び運搬具（純額）	100,151	101,889
工具、器具及び備品（純額）	355,084	338,278
土地	5,003,923	5,003,923
リース資産（純額）	54,545	25,729
建設仮勘定	2,255	2,855
<b>有形固定資産合計</b>	<b>8,396,029</b>	<b>8,287,859</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	54,460	44,248
その他	131,862	132,936
<b>無形固定資産合計</b>	<b>186,322</b>	<b>177,185</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	94,931	72,832
長期貸付金	6,377	6,005
長期前払費用	21,149	21,036
繰延税金資産	142,875	117,208
敷金及び保証金	2,416,304	2,386,669
その他	38,333	36,458
貸倒引当金	26,289	26,102
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>2,693,682</b>	<b>2,614,107</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>11,276,033</b>	<b>11,079,152</b>
<b>資産合計</b>	<b>15,467,426</b>	<b>14,692,354</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	624,620	666,701
短期借入金	901,818	3,244,652
リース債務	40,802	23,602
割賦未払金	188,346	183,321
未払金	169,967	195,205
設備関係未払金	75,226	55,083
未払費用	506,328	482,813
未払法人税等	149,631	30,943
未払消費税等	126,076	80,632
賞与引当金	72,800	40,584
転貸損失引当金	13,297	13,297
その他	569,890	503,247
流動負債合計	3,438,806	5,520,084
固定負債		
長期借入金	4,367,797	1,551,009
リース債務	16,786	3,204
長期割賦未払金	577,561	521,057
繰延税金負債	105,383	105,393
役員退職慰労引当金	351,481	364,553
転貸損失引当金	49,430	39,457
退職給付に係る負債	213,628	220,750
その他	98,534	97,534
固定負債合計	5,780,602	2,902,960
負債合計	9,219,409	8,423,044
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,472,098
利益剰余金	599,159	641,404
自己株式	70,998	6,072
株主資本合計	6,247,807	6,289,815
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	209	20,148
為替換算調整勘定		356
その他の包括利益累計額合計	209	20,505
純資産合計	6,248,017	6,269,309
負債純資産合計	15,467,426	14,692,354

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	12,547,216	12,303,744
売上原価	4,535,989	4,494,710
売上総利益	8,011,227	7,809,033
販売費及び一般管理費	7,898,056	7,689,979
営業利益	113,170	119,053
営業外収益		
受取利息	1,481	1,260
受取配当金	1,893	1,881
受取地代家賃	5,426	5,493
貸倒引当金戻入額	583	181
その他	38,854	31,132
営業外収益合計	48,239	39,949
営業外費用		
支払利息	57,414	51,246
その他	8,000	7,003
営業外費用合計	65,415	58,250
経常利益	95,994	100,752
特別利益		
固定資産売却益		635
受取保険金	43,490	50,185
特別利益合計	43,490	50,821
特別損失		
固定資産売却損	243	
固定資産除却損	3,033	7,375
減損損失	6,301	
賃貸借契約解約損	9,153	1,556
訴訟和解金	9,000	3,287
特別損失合計	27,732	12,219
税金等調整前四半期純利益	111,752	139,354
法人税、住民税及び事業税	54,106	71,442
法人税等調整額	704	25,666
法人税等合計	53,401	97,109
四半期純利益	58,350	42,245
親会社株主に帰属する四半期純利益	58,350	42,245

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	58,350	42,245
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,224	20,358
為替換算調整勘定		214
その他の包括利益合計	11,224	20,572
四半期包括利益	69,575	21,672
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	69,575	21,672

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、重要性が増した安楽亭ベトナム有限責任会社を連結の範囲に含めております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	468,946千円	440,589千円
のれんの償却額	10,211千円	10,211千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	10,392,062	1,753,776	401,377	12,547,216	12,547,216		12,547,216
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	10,392,062	1,753,776	401,377	12,547,216	12,547,216		12,547,216
セグメント利益又は 損失( )	427,796	127,041	23,094	531,743	531,743	418,573	113,170

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては6,301千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、日総開発(株)から1店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては37,666千円であります。

「七輪房業態」セグメントにおいて、日総開発(株)から1店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては14,721千円であります。

「その他業態」セグメントにおいて、日総開発(株)から1店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては15,686千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	10,173,896	1,826,901	302,946	12,303,744	12,303,744		12,303,744
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	10,173,896	1,826,901	302,946	12,303,744	12,303,744		12,303,744
セグメント利益又は 損失( )	459,237	86,830	7,091	538,975	538,975	419,921	119,053

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
1株当たり四半期純利益	27円28銭	19円76銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	58,350	42,245
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	58,350	42,245
普通株式の期中平均株式数(株)	2,138,589	2,138,433

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年 2月12日

株式会社 安楽亭  
取締役会 御中

### 監査法人アヴァンティア

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 小 笠 原 直 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 木 村 直 人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。